

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〔地図番号56〕

開館年月日

2002（平成14）年8月1日

設置主体

厚生労働省

設計者

丹下健三・都市・建設設計研究所



形状

地下2階地上1階建 延床面積 3,099㎡

設置の目的

国として、原爆死没者に対する追悼の意を表し、永遠の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する世界中の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承するために建設されました。

特記事項

1 「8時15分」のモニュメント

地上部の中央に、原爆投下時刻の「8時15分」を示すモニュメントを設置し、その周囲には、水を求めながら亡くなった犠牲者に捧げる水と、建設工事中に敷地内から出土した被爆瓦などを配置しています。

2 平和祈念・死没者追悼空間

地下2階には、円筒形の形をした円周55m、高さ8mの「平和祈念・死没者追悼空間」を設けています。ここは、原爆死没者を静かに追悼し、平和について深く思索するための空間です。被害の甚大さを表すため、爆心地である旧「島病院」付近から見た被爆後の街並みを、1945（昭和20）年末までの死没者数（約14万人）と同数のタイルを用いてパノラマで表現しています。

入り口のある地下1階からは、らせん状のスロープを下りていきます。スロープは反時計回りになっており、時間を現在から過去（被爆当時）へ遡りながら、「平和祈念・死没者追悼空間」へと導きます。

3 被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影の収集、公開など

被爆の実相を伝えるため、被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影を収集し、「遺影コーナー（氏名・遺影）」や「体験記閲覧室」で、公開しています。この「体験記閲覧室」では、当時の写真や証言映像なども閲覧・視聴できます。

また、「情報展示コーナー」では、収蔵している被爆体験記を活用した企画展を開催しています。

そのほか、ボランティアによる被爆体験記朗読会も行っています。